

「あなたは、生き延びるように」

創世記9章13節

東京神学大学大学院2年 片岡 賢蔵

赤・橙・黄・緑・青・藍・紫…。レインボー、虹…。…目を上げれば、大空に、神さまからの美しい色の贈りものを見ることがあります。

さっきまで、あんなに激しい雨が降っていたのに、急に太陽の光が、差し込んできた。「見て！虹だよ。」どんなに心疲れているときも、虹を見かけたら、晴れやかな気持ちになってきます。人は、なぜ、虹を見て、心動かされるのでしょうか？昔の人々も、考えました。

そして、神さまに教えてもらったのです。遠い昔に起こった「大洪水とノアの箱舟」の物語を。

神は、この地球上のすべての生き物を滅ぼす「大洪水」を起こした。人が神から離れて墮落し、悪いことばかり、心に思うようになったからです。神は、人をつくったことを後悔した。

しかし、1人だけ違う人がいた。名前は、ノア。彼は、神に従う、無垢な人だった。そこで、神は、ノアとその家族に、木で巨大な箱舟を作らせて、その中に、地上のいきものたちをオスとメス、ひとつがいつづつ入れるようにして、こう命令します。「あなたは、生き延びるように…。」

やがて、雨は降り続け、洪水が、40日間、地上を覆った。水は勢いを増して、大いにみなぎり、箱舟は、水の面を漂った。地上で生きていた、鳥も家畜も人も、ことごとく息絶えた…。

2011年3月11日、この国に、東日本大震災が起きて、1万8430人もの死者と行方不明者を出しました。10メートル以上の高さの津波が、街に襲いかかり、いろんなものを、かささらっていった。

わたしは当時、テレビ番組の報道記者として現地取材して回りました。そこで、生き延びた人たちが言っていたのは、こんな言葉でした。「まさか、自分の身に、こんなことが起こるなんて。」

突然、自分の身に、不幸が襲いかかることを、人は予想できません。ついさっきまで、一緒に笑っていたのに！身に覚えもないこと、理不尽なことが襲いかかる。なぜ、自分だけが！？わたしが、何か悪いことをしただろうか？意味を問いかけても、答えは、見つかりません。

聖書は、2000年もの間、なんで？どうして？と、人が大きな困難にぶかったときの苦しみを受け止めてきました。意味がわからない、虚しさの中で、絶望的になる人の声を聞いてきたんです。

あなたには、生きていく、意味がある。

「ノアの箱舟」の物語を読み進めていくと、そんなメッセージが立ち上がってきます。大洪水で、生き物が息絶えて、物語が終わったわけではありません。

ノアと箱舟の中にいたものたちは、生き延びた。この物語の一番のメッセージは、神によって、ノアたちは生き延びた、ということです。

生き延びたノアに神が語りかけた言葉が、今日の御言葉。

「わたしは雲の中にわたしの虹を置く。」

虹は、雨が降っているときに見えます。ノアたち、生き延びた者たちにとって、雨は恐ろしかったでしょう。神の怒りが雨となって、降り注いだからです。再び、危険にさらされるのでは！トラウマのようなものです。希望の光など、少しも見当たりません。

ところが、神は、雲の中に、虹を置いた。虹は、雨だけでは見えません。雨に太陽の光が当たって、虹を見ることが出来ます。神さまは、大雨の後に、光を送ってくださった。人間たちが、もう、恐れなくて良いように。

だから、ノアは、思い出します。辛い大洪水によって、たくさんの命が死んでしまった。

けれども、わたしたちは、もう一度、やり直すことができるのだと。

今、私たちが捧げている「礼拝」とは、この神さまから与えられた、やり直すことができる場のことです。何もかもうまくいかない、と思うときが、皆さんにもあるでしょう。それでも皆さん、やり直せるのです。どうすることもできない、この私を、神さまは、救い出す！暗闇を退けて、「生き延びるように」と言われる。この創造された世界を、あなたを、決して、見捨てない！

今、この瞬間も、神さまは働かれています。大粒の雨のあとの虹を、あなたに見せている。この世界が、続いていきますように。あなたにも、神さまの愛が伝わりますように…。

祈ります。

天の父よ。天地を創造し、統治される方、虹を贈って、私たちを立ち返らせてくださる方、わたしたちの主なる神、あなたからの平安が、いつまでもありますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン。

2020年10月20日 聖学院大学 全学シリーズ礼拝「苦難を乗り越える」